Pharmarise HOLDINGS

2012年
8月号
月刊

2012 August 8

薬局新聞

Pharmacy Press

薬の使いかた

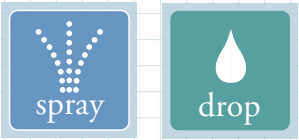
点鼻薬【てんびやく】

点鼻薬は主に、炎症やアレルギー、鼻づまりなどを抑える目的で使われます。

点鼻薬の種類

	主な医療薬	特　徴
抗アレルギー薬	インタール、リボスチンなど	アレルギー性鼻炎などに有効。十分な効果が出るまで少し時間がかかる。花粉症では、予防的に早めに開始することがある。
ステロイド薬	アルデシン、フルナーゼ、ナゾネックス、アラミストなど	炎症を抑える。局所に作用するので、飲み薬のような全身の副作用は起こりにくい。
血管収縮薬	プリビナ、ナシビン、コールタイジンなど（市販薬にも含まれるものが多い）	血管を収縮し、鼻の腫れをとる。主に鼻づまりに使う。使い続けると効き目が悪くなってくる。鼻づまりのひどいときに限り、ワンポイントで使用するようにしましょう。

点鼻薬の容器の種類と使い方



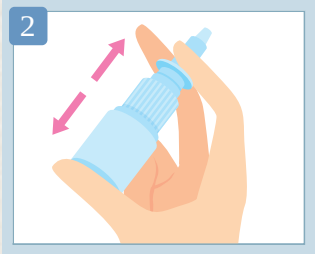
大きく分けて「鼻に噴霧（スプレー）する」ものと、「鼻に液をたらす（滴下する）」ものがあります。初めて使う時は、よく説明を受けておくことが大切です。

詳しい使い方については、それぞれの薬に付いている説明書を読みましょう。ここでは、多くに共通する使い方を説明します。

噴霧するタイプの場合

1 鼻の通りを良くするため、鼻を軽くかみます。

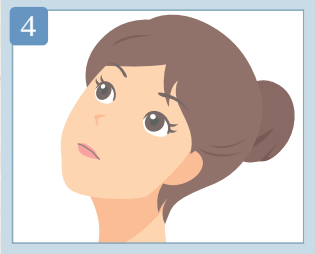
2 薬の容器をよく振ります。（濃度や粘り気を均一にして、正確な量を噴霧できるようにする）。最初の噴霧を行う前に予備噴霧をし、正常に噴霧されるのを確かめる操作が必要なものがあります。決められた回数「空噴霧」を行いましょう。



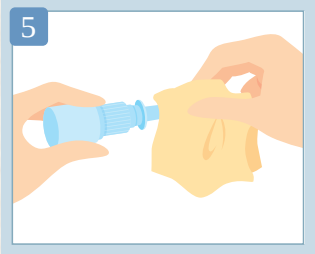
3 容器を横にならないように手に持ち、先端を鼻に入れ、鼻から軽く息を吸い込みながら、噴霧します。噴霧時は、頭をうつむき加減にし、噴霧しない方の鼻を押さえるとよいでしょう。

4 へつづく

4 その後、数秒間上を向いて、鼻からゆっくり呼吸し、薬を鼻の奥まで行き渡らせます。



5 使用後は容器の先端をきれいに拭いて、キャップをして保存してください。



滴下するタイプの場合

1 鼻を軽くかみます。

2 頭を後ろに傾けるか、仰向けに横になって、鼻が上に向くようにし、鼻の中に、指示された滴数を入れます。

3 その後、2～3分間はそのままの姿勢を保ち、薬を行き渡らせます。

滴下するタイプの代表的な薬剤

リンデロン点眼・点耳・点鼻液、点眼・点鼻用リンデロンA液、ナシビン点鼻・点眼液、プリビナ液、など

＼注意点／

- 医師からの指示のあった、1回の使用量、1日の使用回数、使用日数を守りましょう。
- 決められた回数（28回、56回など容器に記載あり）を噴霧し終わった後では、薬の残量が少なくなり、適正な量を噴霧できなくなります。規定回数を使い終わった薬は使用せずに、新しい薬に取り換えてください。

Pharmarise HOLDINGS
ファーマライズホールディングス株式会社　東京都中野区中央1-38-1
ファーマライズ医薬情報研究所　DI室　作成